

平成21年度から適用される 税制改正(住民税)のお知らせ

問 市民税課 ☎ 内線 2344
武蔵野税務署 ☎ 53-1311

個人住民税の寄附金控除が拡充されます

	改正前	改正後
対象となる寄附金	都道府県・市区町村に対する寄附金 住所地の日本赤十字社・東京都共同募金会に対する寄附金	都道府県・市区町村に対する寄附金 住所地の日本赤十字社・東京都共同募金会に対する寄附金 各都道府県・市区町村の条例で定めた寄附先に対する寄附金(注1)
適用下限額	10万円	5千円
控除方式及び基本控除額	所得控除方式 寄附金 - 10万円	税額控除方式 (寄附金 - 5千円) × 10%
控除対象限度額	総所得金額等の25%まで	総所得金額等の30%まで
特例控除額(注2)	なし	に対する寄附金には、所得割額の10%を上限に、以下の計算式で算出した金額を加算する (に対する寄附金 - 5千円) × (90% - 所得税限界税率) 所得税限界税率とは、本人に適用される所得税の最高税率のこと(年収により5% - 40%)

控除を受けるには申告が必要です

手続き方法

寄附金の領収書を添えて所得税の確定申告をしてください(個人住民税の申告は不要)。確定申告をしない場合は、寄附をした翌年1月1日時点でお住まいの市区町村に寄附金・領収書をそえて個人住民税の申告書を提出すると、個人住民税のみ控除されます。

平成21年度個人住民税の控除対象となるのは平成20年1月1日から12月31日までの寄附金です。

寄附金控除は個人住民税の所得割からの税額控除です。均等割(年額4千円)のみ課税されている場合は税額控除されません。

(注1) 寄附金先については、東京都・三鷹市とも現在検討中です。決まり次第「広報みたか」市のホームページなどでお知らせします。

(注2) 特例控除額とは、「ふるさと」に貢献したい、「ふるさと」を応援したいという納税者のみなさんの思いを、都道府県・市区町村への寄附金という形で表していただいたときに住民税を軽減するための控除です。

住民票などの交付は便利な自動交付機をご利用ください

暗証番号が登録された「印鑑登録証兼三鷹市民カード」または「三鷹市民カード」をお持ちの方には、休日や夜間でも自動交付機で住民票の写し、印鑑登録証明書、各種税証明書の交付をしています。

また、三鷹市に住民登録と本籍がある方は、戸籍の証明書に関する暗証番号の登録をすると、戸籍の全部事項証明書(戸籍謄本)・個人事項証明書(戸籍抄本)・戸籍の附票も自動交付機で交付します。

カードの発行や暗証番号の登録は、市民課または市政窓口へ(印鑑登録は市民課と三鷹駅前市政窓口で受け付け)

自動交付機設置場所 三鷹駅前市政窓口、三鷹市役所(正面玄関隣)、三鷹台市政窓口

利用時間 午前8時30分～午後9時(12月29日～1月3日は除く)

問 市民課 ☎ 内線 2326

年金受給者の個人住民税の納付方法が変わります

平成21年10月から公的年金(国民年金、厚生年金、共済年金など)を受給されている方の個人住民税を、公的年金から差し引く制度(特別徴収)が開始されます。次の～のすべてに該当する方が対象となり、平成21年6月に個別に通知します。

前年中に公的年金等の支払いを受けている

国民年金法に基づく老齢基礎年金などの支払いを受けている(1つの年金で年間18万円以上)

その年度の4月1日現在で65歳以上

介護保険料が年金から特別徴収されている

その年度の特別徴収税額(公的年金から差し引く税額)が国民年金法に基づく老齢基礎年金などの年額を超える場合や、遺族年金、障害年金は今回の制度の対象になりません。

小・中一貫教育校の学園名が決まりました

平成21年度に小・中一貫教育校として開園する、第三中学校区、第四中学校区、第五中学校区の学園名が決まりました。

学園名は、各中学校区に在籍する児童・生徒、保護者、地域の方々に実施したアンケート調査を参考に、各中学校区ごとに組織しているコミュニティ・スクール開設準備委員会や学校運営協議会で協議し決定しました。

学園名

第三中学校区(五小、高山小、三中) = 「三鷹の森学園」

第四中学校区(三小、七小、四中) = 「三鷹中央学園」

第五中学校区(中原小、東台小、五中) = 「鷹南(たかみなみ)学園」

学園の名称は呼称として定めるもので、各学校の正式名称は従来どおりです。平成21年の開園以降は、「学園三鷹市立 学校」となります。

問 指導室 ☎ 内線 3245



子どもたちが南極昭和基地と交信!



大きなスクリーンで南極と交信

10月30日(木)、おおさわ学園(羽沢小、大沢台小、七中)の子どもたちが羽沢小学校に集まり、南極昭和基地の南極観測隊とテレビ電話で交流しました。この交流は、羽沢小に通う児童の保護者吉見英史さんが第49次南極観測隊員として越冬していることから実現したもので、子どもたちは普段なかなか見られない南極の様子を見ながら隊員に質問するなど、充実した時間を過ごしました。

吉見さんに、南極ではどんな観測をしているのかを尋ねた三瓶巧君(大沢台小6年)は、「南極に興味があって自分でもいろいろ調べていたので、隊員の人と話せてうれしい。南極では星やオーロラ、空気など、いろいろなものを調べられるとわかった。とても寒くて大変なところと思っていたが、基地の中ではお風呂にも入っていて、日本とあまり変わらないような暮らしができると聞いてびっくりした。科学や星にも興味があるので将来は研究者を目指したい」と、貴重な経験を目を輝かせていました。

子どもたちからの質問のあと、会場では第49次南極観測隊の総隊長伊村智さんが南極の氷や隕石などを紹介するコーナーもあり、20万年前にできた氷に閉じ込められていた昔の空気が、プチプチという音とともに溶け出す様子が歓声があがりました。伊村さんは「南極ではあらゆる仕事がある。料理人でも整備士でも研究者でも、その道のプロになって一緒に南極に行こう」と生徒たちに語りかけていました。



南極の氷が解ける音を聞く子どもたち